

平成 28 年度 『四季の郷』 事業報告書

1. 四季の郷の支援目標

『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

2. 利用者の状況

利用者の年齢構成

(単位：名／施設入所支援利用者 49 名中・H29. 3. 31 現在)

	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	計
男性	0	5	12	1	4	2	24
女性	1	3	5	4	8	4	25
最高齢 79 歳／最若齢 21 歳							

利用者の障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男性				3	13	8	24
女性			1	5	12	7	25
平均障害支援区分 5.1							

3. 具体的な取り組み

28 年度事業計画書の具体的に沿って振り返りを行う。

(1) 常に人権を守る意識を土台にし、質の高いサービス提供に努める。

①QOL向上委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め 5 名の職員での『QOL 向上委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

●職員サービス自己評価の実施と前年度結果の集計及び改善に向けた取り組みの実施

…平成 29 年 3 月に 28 年度サービス自己評価を実施、床屋・美容院での髪型及び食事時ドレッシングが選択できるような取り組みの実施、利用者自治会との連携強化

●昴会利用者の権利擁護のための職員行動基準順守に向けた取り組みの実施

…「呼称強化月間」「支援の前の声掛け月間」の設定

●利用者自治会の運営

…利用者から選ばれた会長を中心に役員、その他参加希望者によって自治会の取り組みを行った。職員は、写真や実物を使って意思決定がし易いような工夫を行った。

月	主 な 内 容
4	親子遠足の弁当おかずアンケート
5	クラブアンケート、セレクトジャム・ジュース・入浴剤の検討
6	夏祭り花火企画の打ち合わせ、セレクトジャム・ジュース・入浴剤の検討
7	神奈川県津久井やまゆり園事件の説明、セレクトジャム・ジュース・入浴剤の検討
8	お楽しみ会打ち合わせ、セレクトトッピング・シヤム・入浴剤の検討
9	秋祭りの飲み物・クリスマス会のメニューの検討、セレクトジャム・入浴剤の検討
10	居室のれんの色の検討
11	初詣の検討、セレクトジャム・ジュース・入浴剤の検討
12	セレクトトッピング・シヤム・入浴剤の検討
1	初詣の実施
2	利用者自治会総会の検討
3	利用者自治会の実施

●身体拘束モニタリングの実施

●利用者個々の冬場対策の検討・確認

②虐待を防止する取り組み

法人の虐待防止委員会主導の元、『QOL向上委員会』にて年度内3回の虐待防止に関わる職員セルフチェックを行った。セルフチェック集計の結果は施設長及び法人虐待防止委員会に報告をした。また、虐待防止委員会での提言を受け「四季の郷利用者日常支援・関わりマニュアル」を作成し、全職員に周知した。これにより、支援や関わりの基本が確認でき職員個々の動きの確認がし易くなった。

(2) めりはりのある生活ができるように支援を行う。

①支援体制

●施設支援計画・モニタリング

今年度も、年度当初に前年度の支援状況の確認と支援計画に関する説明を利用者、保護者・家族または後見人とケース担当者の三者面談の中で実施してきた。また、10月にも再度利用者・保護者等と支援目標等についての確認を行い、利用者本位の支援の実施を心掛けてきた。

●生活支援体制

今年度は、A・B棟二舎制の生活環境をベースに支援を行ってきた。入浴や課業活動を除き、それ以外の生活場面では二舎別々で支援を行ってきた。

二舎制にしたことで、A棟グループ（比較的行動範囲の広い若年層グループ）とB棟グループ（下肢機能が低下していた一定の医療ケアが必要な高齢者グループ）それぞれの生活ペースが作ることができたり、一日を通して比較的担当職員の入れ替えが減り協働し易くなったことにより、継続的な支援や関わりができるようになった。また、また課業活動が活発になったことは大きな成果であった。

反面、A・Bを区切るパーテーションの位置の都合で特にB棟グループでは生活範囲が狭くなってしまったというデメリットも見られた。そのため、なるべく棟内歩行や屋外歩行の機会を増やすなどの取り組みを行ってきた。

●会議

今年度は、以下の会議を実施してきた。

・職員全体会議

半年に1回（4月・10月）開催。全職員出席。施設全般の方向性の確認や行政関連内容の報告、支援面への指示等の確認や棟・医務・栄養からの報告・内容確認を行ってきた。

・男女別ケア会議

男女職員別で毎月1回ずつ実施した。二舎制になってより男女職員の連携での支援がやり易くなったため、男女関わらず勤務が合えば参加可能とした。サービス管理責任者・支援員・看護師・栄養士出席。ケース検討などの支援に関わる確認・検討を行った。

・給食会議

月1回開催。施設長・事務局長、サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

・主任者会議

月1回開催。サービス管理責任者・主任支援員が出席。支援全般の課題等の具体的な検討・調整等を行った。また、今年度は、職員全体・個々の状況をより把握し計画していけるように研修の計画・実施についても担当した。

・各委員会

※QOL向上委員会、危機管理委員会、地域交流委員会は別項で報告

②日中課業活動の支援

今年度も、心身の状況、能力、利用者・家族の要望に基づき、以下の平日は3つの班、土・日は5グループのクラブ活動を計画的に実施してきた。平日3班での活動で得た収益を元に、年2回、数千円ずつの収益金の還元（工賃）の支給を行ってきた。

A. 平日の課業活動支援（生活介護事業での日中活動支援）

●匠・リサイクル班・・・作業中心のグループ

今年度は20名の利用者が所属し、活動を行ってきた。

空き缶リサイクル作業、ペットボトルキャップ分別作業、フック組み付け作業、手作りキャンドル制作・梱包作業の4つの作業プログラムを用意し日中活動支援を行ってきた。作業場所も、別棟の作業棟をできるだけ利用していったり、作業後に散歩に出掛けたりして気分転換も意識してきた。空き缶リサイクル作業については、利用者のご家族に空き缶提供のご協力をいただいた。

今年度当初からのA・B棟二舎体制の展開によって、活動回数・時間とも増加することができた。

●こつこつ骨班・・・歩行中心のグループ

今年度は21名の利用者が所属し、活動を行ってきた。

歩行活動は近くの公園を利用した、活動が単調にならないように5ヵ所ほどの公園を活用した。また悪天候時にはドライブを実施してきた。

A・B棟二舎制の導入で、全体としては継続的な活動ができるようになったが、利用者のニーズがより高まってきたり障害の重度化により行動の把握がより必要になってきたりする状況があり、実施体制の再検討も必要になってきた。

●ワイワイグループ・・・高齢者等の機能維持活動中心のグループ

今年度は、B棟利用者中心に11名が所属し、活動を行ってきた。

活動内容は、全体活動として竹太鼓や手遊び歌、ボールころがしや感覚ゲーム等の車椅子利用者でも参加できる室内のゲーム・レクリエーション、映画鑑賞、音楽鑑賞等、楽しみながら機能維持訓練ができることを行ってきた。一方で個別対応も必要であり、B棟の利用者中心であるメリットを生かし、B棟担当職員の連携の元設定している課業活動以外の時間帯を利用しての歩行訓練等も積極的に行ってきた。

B. 休日等のクラブ活動支援

●音楽クラブ

今年度も、季節に合った歌をうたうこと、鈴やタンバリン、太鼓などを利用した合奏、音楽に合わせた体操や手遊び等のプログラムで、音楽を楽しみ情緒の安定を図ることを目的に活動を行った。また、その発表の場の1つとして、近隣の高齢者施設に敬老の日訪問やクリスマス会での演奏を行った。

利用者個々の音楽の楽しみ方を大切にして、楽しい雰囲気を作りながら支援を行った。

●競技クラブ

『わかふじスポーツ大会』（フライングディスク競技）、『オレンジマラソン大会』エントリーを目指し、出場競技の練習を行った。特に8月のフライングディスク競技では、練習の成果が出たのか、アキュラシー（的くぐり）の部門で見事2位になる利用者も見られた。練習の成果が出たのかまた、今年度も県障害者スポーツ協会からスポーツ指導員を派遣していただき、園内でバルバレーやボッチャ等の競技も楽しんだ。

●絵画クラブ

今年度も、12月に実施された『愛護ギャラリー展』出展を目指し、利用者個々の絵画や編み物制作に加えメンバー全員での段ボールを使った大きな共同作品にも挑戦した。作品全体をメンバーで分担して制作したため、個性豊かな作品が出来上がったが、利用者個々には何を使っているのかイメージが持ちにくかった様子で結果、職員側が手を掛けすぎたのではないかという反省も出された。

●元気クラブ

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。歩行距離を伸ばすことより、季節をより感じられるような楽しい雰囲気づくりに心掛け、個々の状態にあったペースで実施してきた。

●家庭科クラブ

特に調理プログラムについては年々利用者の興味が高くなってきたため、毎月1回、調理活動を行ってきた。内容としては、ホットケーキ等の簡単なデザート作りを食堂にて行った。年度当初は、近くの協働センター調理室での調理も考えていたが、結局実施はできなかった。調理の他には、裁縫やビース通し等の手芸を行った。

③行事活動の支援

今年度も、ねらい別に全体行事、グループ活動、誕生会・季節行事に大きく分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。

A. 全体行事

●春の親子遠足・・・5月22日（日）

今年度も豊橋総合動植物公園に出掛けた。利用者、家族、職員、ボランティアの計100名の参加であった。利用者自治会の要望に沿ったお弁当を持って、グループ単位で園内を散策した。気温の上昇のため前年度に続き5月実施としたが、この日も気温が高い状況で、高齢利用者1名は参加を見合わせた。

●夏祭り・・・8月6日（土）

昨年度までの20年間、近隣の高齢者施設ヴィラ東山苑と共催での開催を続けてきたが、両施設の利用者の状況の変化を理由に、今年度から四季の郷単独での開催を行った。盆踊りと出店に加え、スイカ割りや利用者自治会主催の手持ち花火を行い、家族、学生ボランティアと共に夏の一夜を楽しんだ。

●秋祭り&保護者会バザー・・・11月23日（水・祝日）

12月5日からの「障害者週間」を踏まえての地元大山町の自治会長に一日施設長委嘱企画を含み、浜松市内の吹奏楽団や地元の踊り・マジック一座の出演、地元企業のゆるキャラの参加や出店、そして四季の郷保護者会主催のバザー等を学生ボランティア等の協力の元で、盛大に実施した。

●クリスマス会・・・12月23日（金・祝日）

今年度も浜松湖北高等学校吹奏楽部の演奏から会が始まり、四季の郷利用者自治会での意見に基づいて準備したパーティ食の喫食、音楽クラブの発表や職員のパフォーマンス、保護者会役員が扮するサンタクロースからのプレゼント等、学生ボランティアの協力を受けながら、楽しい時間を過ごした。

B. グループ活動

今年度のグループ活動は、4月の利用者、保護者・家族面談にて個別に外出希望のうかがい、外出テーマ（『観光・散策』、『食事』、『買い物』）別に小グループを編成し外出を行った。

※27年度の活動実績

日付	テーマ	内容	利用者	職員
5月27日	買い物	杏林堂、サンストリート浜北	3名	2名
6月2日	食事	ららぽーと磐田	3名	2名
7月25日	食事	御前崎なぶら市場	2名	2名
8月19日	食事	イオンモール浜松市野（AM）	2名	2名
	食事	ガスト浜松住吉店（PM）	3名	2名
9月28日	観光・散策	竹島水族館	4名	2名
10月18日	観光・散策	竹島水族館	4名	3名
11月4日	買い物	プレ葉ウォーク浜北（AM）	5名	3名
	食事	ロックタウン高丘（PM）	4名	2名
12月6日	買い物	イオンモール志都呂（AM）	3名	3名
	食事	都田公園（PM）	3名	2名
1月25日	食事	ららぽーと磐田	4名	2名
2月21日	食事	富士山静岡空港	4名	3名
3月13日	観光・散策	浜松フラワーパーク	3名	3名
	観光・散策	浜名湖ガーデンパーク	4名	3名

C. 誕生会・季節行事

今年度も、生活の“めりはり”に季節感を入れ込んでいきたいという理由から、お花見や七夕、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施してきた。

④健康を維持するための支援

●医療管理

今年度も、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。生活支援を行う支援員との情報共有や取り組みの確認・調整や食事形態や内容に対策が必要な場合には栄養士との連携を行ってきた。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月2回の定期受診に基づき実施してきたが、年2回の

健康診断等で発見される糖尿病や高血圧、心疾患や呼吸器疾患等は近隣の内科や呼吸器科、循環器科等の専門病院に通院を実施してきた。他、歯科や皮膚科、耳鼻科、眼科、整形外科等、多くの通院も行ってきた。

前年度に見られたインフルエンザの集団感染は、今年度は見られなかった。職員の罹患もほとんど見られず、館内の加湿、手洗いの励行や抗ウイルス薬スプレーと二酸化塩素入りのストラップの職員所持等の効果が見られたのではないかと考えている。

●栄養管理

健康管理に関しては、医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の元で利用者一人ひとりに合った食事提供を行った。

特別食の内容は糖尿病食やダイエット食・嚥下食等があり、その他食欲不振・偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫を行ってきた。年々、利用者の高齢化による嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下（ペースト）食・軟菜食・極刻み食等の嚥下状況に合わせた食事提供の必要度が増している状態がうかがわれた。

また、栄養ケアマネジメントについては、栄養士だけではなく他職種との連携をとりながらトータルの栄養ケアを行ってきた。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心掛けてきた。

献立作成時は旬の食材を取り入れ、食事から季節を感じてもらえるよう提供してきた。特に行事食については、利用者の要望を取り入れ季節感のある行事食を提供してきた。また震災時への対応として、7日分の非常食と飲料水を確保し防災倉庫に備蓄した。

※食事提供の状況

盛り付け量	主食	カロリー	男	女	合計
極々小	60g	1450kcal	0	2	2
極小	100g	1550kcal	0	7	7
小	120g	1650kcal	5	13	18
中	150g	1750kcal	5	3	8
大	200g	1950kcal	7	1	8
特大	250g	2150kcal	6	0	6
超特大	300g	2350kcal	1	0	1
合計			24	26	50

種類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	0	3	3
	コンニャクライス	0	2	2
	低脂肪牛乳	1	0	1
	糖尿食	0	0	0
	心臓病対応食（塩分制限）	0	3	3
	極刻み食	9	12	21
	刻み食	1	1	2
栄養補助食品	一口大	1	0	1
	嚥下ミキサー食	1	2	3
	微量栄養素補助食品	1	0	1
	高カロリー食品			

(3) 安全・安心の生活ができる環境づくりを行う。

①危機管理委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め5名の職員での『危機管理委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

●月単位の事故報告書、ひやり・はっと報告書の集計・分析・再発防止策の検討

…特に怪我等に関わる重大な事例については、リスク分析票を作成し事故の要因と対策を検討し、

文書やケア会議等で報告・周知を図ってきた。

●事故防止策の質を高めるための委員会内学習会の実施

…食事や入浴時の介護技術、嚥下等について触れてきた。

②感染症対策

インフルエンザやノロウイルス感染対策として、対応マニュアルの整備・汚物処理ワゴンの導入・職員への研修・手洗い時のふき取りに使用するペーパータオル使用などを行ってきた。

③防災訓練

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。その総括は以下の通りである。

実施月日	訓練実施内容
4月12日	突発的地震を想定しての避難訓練を実施
5月11日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施。消火器による消火訓練を実施
6月22日	南海トラフ・東海地震を想定しての法人合同防災訓練を実施 四季の郷では避難所開設、運営訓練を実施 「安否コール」による職員・家族安否確認・連絡訓練を実施
7月22日	夜間火災を想定しての避難訓練を実施
8月17日	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施 消火器による消火訓練を実施
9月14日	安否コールを使用し送受信訓練及び非常招集訓練を実施 夜間の突発地震を想定しての避難訓練を実施
10月26日	火災防災マニュアルに沿った図上訓練を実施
11月27日	地震防災マニュアルに沿った図上訓練を実施
12月26日	平日の日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施
1月11日	夜間火災を想定しての避難訓練を実施
2月15日	湖東消防署消防隊員によるAEDを用いての心肺蘇生訓練を実施
3月6日	平日の日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施

(4) 家族や地域の方々との関わりを深め、障害者福祉の地域拠点となるように努める。

①地域交流委員会

今年度も、主任を含め5名の職員での『地域交流委員会』を組織し、今年度は計8回委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

特にボランティアとの関わりについては、大学や専門学校の学生課等を通して募集依頼をすることが中心であった。複数回来園してくれるボランティアも見られたが、開拓・育成という段階まで持っていくことができなかった。ホームページがあるものの、地域住民への理解をどのような方法で深めていくのかが大きな課題として残った。

●四季の郷保護者会の事務局機能

…保護者会役員会や保護者会行事の補助等の保護者会との橋渡しを行った。

●行事ボランティアの募集・受け入れ

…秋祭りやクリスマス会等の行事で手伝いをしてくれるボランティアの募集について、近隣大学に募集依頼を行った。また一般のボランティアは職員を通して募集・依頼することが多かった。

●昴会ホームページの更新作業

②実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生の受け入れを行ってきた。前年度に比べると、受け入れをした大学・専門学校の数や実習日数は変わらないものの、受け入れ人数が減少した。

※実習生受け入れ実績 (平成28年4月～平成29年3月／実習受け入れ順)

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
静岡県立大学短期大学部	保育実習	6月6日～6月18日	12	1
浜松学院大学	保育実習	7月4日～7月16日	12	2
聖心女子専門学校	保育実習	7月19日～7月30日	11	2
静岡県立大学短期大学部	社会福祉士資格取得	8月6・7日、13日～30日	18	2
聖隷クリストファー大学	介護実習	8月6日	1	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	8月31日～9月12日	12	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	9月13日～9月25日	12	2
静岡県立大学短期大学部	保育実習	10月3日～10月15日	12	1
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月7日～11月18日	11	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月21日～12月2日	11	1
静岡子ども福祉専門学校	介護実習	1月23日～1月27日	5	2
静岡県立大学短期大学部	社会福祉士資格取得	2月20日～2月25日	6	1
浜松医療福祉専門学校	体験実習(歯科衛生士)	5月～7月の間(1日ずつ)	9	18
実習受け入れのべ日数			223日	
実習受け入れのべ人数			38名	

③短期入所

●受け入れ実績

平成28年度の受け入れ実績は以下の通りである。

月	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	月計
4	0人	3人	2人	3人	8人	0人	16人
5	0	2	2	5	10	0	19
6	0	1	1	5	8	0	15
7	1	1	1	5	8	0	16
8	1	2	1	4	5	0	13
9	1	2	1	4	8	0	16
10	0	1	1	4	8	1	15
11	0	1	1	4	8	1	15
12	0	1	1	3	6	1	12
1	0	1	1	3	8	0	13
2	0	1	1	4	4	1	11
3	0	1	2	4	6	0	13
計	3人	17人	15人	48人	87人	4人	174人
合計 年度 比較	平成28年度 のべ1281日／174人 平成27年度 のべ1616日／190人						

④日中一時支援事業

●受け入れ実績

平成28年度の受け入れ実績は以下の通りである。

月	浜松市		磐田市	
	実人数	のべ時間	実人数	のべ時間
4	9人	345時間		

5	7	325		
6	9	370	1	6
7	6	309		
8	8	283	1	5
9	6	252		
10	6	329		
11	7	355		
12	8	312		
1	7	371		
2	8	213		
3	6	324		
計	87人	3788時間	2人	11時間
合計年度 比数	平成28年度 実人数 89人 / のべ 3799時間 平成27年度 実人数 101人 / のべ 4130時間			

(5) 職員のスキルアップに努める。

①職員研修の実施

今年度も、積極的に園内研修および外部研修を実施してきた。

園内研修については、今年度は月に1回の実施を行った。内容は、利用者の権利擁護をはじめ自閉症や直接的介助技術に関することを行った。支援の現場で悩んでいることや介助技術のスキルアップを目指し、外部講師に依頼しながら行ってきた。

外部研修についても、知的障害者福祉協会や社会福祉協議会主催の研修を中心に、経験や関心、ケース担当利用者との絡みでの人選を行い参加につなげた。ただし、十分に研修報告会の実施などのフィードバックができなかったことは反省点であった。

●園内研修

日付	研修内容	対象参加者
4月6日	『2舎制について』意見交換	全職員
5月30日	口腔ケア(外部講師)	12名(正職員・パート)
6月29日	外部研修報告(久保田・都築) 『サービス業としての視点』	中堅職員(9名)
7月26日	外部研修報告(安間・大石・相曾) 『権利擁護』について	全職員(17名)
8月31日	外部研修報告(斉藤・大城・松本) 『自閉症の理解を深める』(DVD観賞)	17名(正職員)
9月27日	施設見学(宍原荘:障害者支援施設)	7名(新人~中堅)
10月28日	外部研修報告(菅沼・原田・鈴木菜) 『レクリエーション』について	13名(正職員)
12月2日	介護技術出前講座【移動・移乗】	10名(正職員・パート)
12月7日	介護技術出前講座【食事の介助】	9名(正職員)
12月27日	外部研修報告(大村・内田) 『権利擁護』について	全職員(19名)
1月23日	介護技術出前講座【認知症の方に対するケアの留意点】	9名(正職員)
1月27日	保護者講話 『利用者の気持ちを表すもの』	22名(正職員)
2月15日	防災講習会 『AEDを用いた心配蘇生法訓練』	11名(正職員)
3月2日	外部研修報告(大城・相曾) 自閉症DVD観賞	10名(正職員)

*全職員・・・把握職員、夜勤・早夜勤入り の職員を除く

●外部研修

日付	研修内容	参加者
5月27日	西部地区施設連絡会『福祉職場の組織性向上講座』	1
6月16日	認知症の人に寄り添うプロの介護セミナー	1
6月16日	西部地区施設連絡会（施設見学）	1
6月28日	働くモチベーションを生み出す『チームづくり』	1
7月16日	東海地区知的障害関係施設職員等研究協議会	2
7月11～12日	社会福祉法人 主任／係長講座	1
7月12日	西部地区施設連絡会（施設見学）	1
7/19、8/24、10/12	絵画療法講座	1
8/17、9/8、10/5、11/1	介護・看護のための指導力向上講座	1
8月18日	西区障害者自立支援連絡会（事例検討）	2
9月5日	楽しく笑顔になれるレクリエーション講座	1
9月8～9日	日本知的障害者福祉協会全国大会（札幌）	1
9月13日	西部地区施設連絡会『マニュアルについて』	1
10月3日	高齢を迎える知的障がいのある人の支援	3
10月21日	西区障害者自立支援連絡会（事例検討）	1
11月10日	福祉職場の組織性向上講座	1
11月15日	県虐待防止・権利擁護研修会等	1
11月24～25日	県知的障害者福祉協会障害者支援施設部会	2
12月2日	浜松市西区自立支援連絡会全体会	2
12月5日	家族とのより良い関係づくり講座	1
1月23日	福祉・介護現場のためのレクリエーション研修	1
1/26、2/2、2/3	福祉職員キャリアパス対応型生涯研修課程初任者コース	1
2月15日	サビ管・児発管の資質向上研修	1
2月16日	効果の上がるOJT実践講座	1
2月16日	自閉症支援のための評価セミナー	1
2月16日	西部地区施設連絡会（障害者差別解消法の理解）	1
3月1日	平成28年度職員研修（障害を理解する）	1
3月3日	西区自立支援連絡会全大会	2
3月5日	平成28年度発達障害児者支援実践報告会【中・西部地区】	2